

令和4年度広域的な人財育成事業 実績報告書

おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～

事業概要

趣旨 目的	<p>【趣 旨】</p> <p>置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。</p> <p>置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。</p> <p>そのため、本組合では、第5次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成25年度～令和4年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。</p> <p>【目 的】</p> <p>本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。</p>
概要	<p>【事業内容】</p> <p>本組合の人財育成事業は、平成28年度を開始年度として令和4年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」を事業の骨子とする。</p> <p>事業内容としては、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF-J」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講座を通じて様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。 ②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。 ③フィールドワークや演習を通じて実体験。 ④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。 ⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。

	<p>【事業イメージ】</p> <p>《人と地域をつなぐ事業のイメージ》</p> <p>【気づき】 講座1 6月予定</p> <p>【学び】 講座2 8月予定</p> <p>【交流】 フィールドワーク 11月予定 外部研修 1月予定</p> <p>【活用】 講座3 3月予定</p> <p>【発見】 【きっかけ】 【展開】</p> <p>受講者は置賜3市5町から公募により選出</p> <p>講師：坂倉 杏介氏（東京都市大学都市生活学部准教授）</p>		
	実施事業	項目	月日
	受講者説明会	R4. 5. 26	受講者へ事業内容を説明
	講座1	R4. 7. 17	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか
	講座2	R4. 8. 20	私のやりたいこと×社会によいこと
	フィールドワーク	R4. 11. 25～26	芝の家、芝のはらっぱ、ご近所イノベーション学校、おやまちプロジェクトの視察研修
	シンポジウム	R5. 2. 26	7年間の集大成事業
	講座3	R5. 3. 25	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか

講師

坂倉 杏介 氏（東京都市大学都市生活学部准教授）

多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

受講者名簿 [第7期] 計13名

米沢市：男性4名、女性2名、高畠町：男性2名、川西町：男性2名、女性1名
飯豊町：女性1名、小国町：女性1名

事業支援

団体名	所属・職名	氏名
(一財) 地域活性化センター	フェロー・人材育成プロデューサー	前 神 有 里

年度別受講者数

年度	性別	米沢市	長井市	南陽市	高畠町	川西町	白鷹町	飯豊町	小国町	計	合計
H28	男性	1				2				3	12名
	女性	5	1				1	2		9	
H29	男性	2		2						4	13名
	女性	6	1		2					9	
H30	男性	1	2				1			4	15名
	女性	4	1	1	1	4				11	
R1	男性	3						1		4	12名
	女性	6	1	1						8	
R2	男性	2							1	3	7名
	女性	1	1			2				4	
R3	男性	1	1	1						3	6名
	女性	1	1						1	3	
R4	男性	4			2	2				8	13名
	女性	2				1		1	1	5	
計	男性	14	3	3	2	4	1	1	1	29	78名
	女性	25	6	2	3	7	1	3	2	49	

事業内容

講座1 「私たちはこの地域でどんなふうに生きていきたいか」

項目	内容
参加者	受講者10名
月日	令和4年7月17日(日) 10:00~16:00
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
内容	<p>講座は、いまの気持ちをシェアする「チェックイン」から始まり、講師から、人と地域をつなぐ事業のキーワードである「ゆるふわ」や、コミュニティマネジメント、ウェルビーイングについて話があった。</p> <p>「ゆる：開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。」</p> <p>「ふわ：まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。」</p> <p>これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。</p> <p>講座は、私を生かして、まちを活かす。(新しい社会システムをみんなで作くりあう時代へ)、仲間がいなければ、はじまらない。(自分・他者・社会・世界でつながること)、「常識」を一歩超えていくには(想いをカタチにしてい</p>

ための創造の技法) といった内容で進められた。

講座の中で、人と人のつながりから新しい価値を生み出す基盤としての協働プラットフォーム、これまでの常識にとらわれず未来を生み出すためのシステムチェンジの2ループモデルなどの話があった。

講話のあと、受講者同士がどんな人生を送ってきたのか、対話の中で掘り下げる「エナジーカーブ」のシェアを行うワークショップと、「私たちはこの地域でどんなふう生きていきたいか」をテーマにワークショップを実施し、対話による内容の共有後、これからの2ヶ月で取り組んでみたいことを受講者全員が発表した。



講座2 「わたしがこれからやってみたいこと」

項目	内容
参加者	受講者10名(3名オンライン)
月日	令和4年8月20日(土) 13:00~17:00
場所	米沢市「スタジオ八百万」及びオンライン
内容	「チェックイン」のあと、これからの2~3ヶ月で取り組んでみたいことを一人ずつ話し、深掘りしたいテーマを選び、参加者全員でアイデアを出し合うワークショップを行った。最後に、講師よりワークショップのまとめと幸福の4因子(やってみよう、なんとかなる、ありがとう、自分らしく)の話があり、受講者のこれからの活動につながる時間となった。

写 真



フィールドワーク

項 目	内 容
参加者	受講者7名、修了生4名
月 日	令和4年11月26日～27日
場 所	(1)「おやまちプロジェクト」東京都世田谷区尾山台 (2)「芝の家、芝のはらっぱ」東京都港区芝 (3)「ご近所イノベータ学校シンポジウム」慶應義塾大学
内 容	<p>(1) タタタハウスとおやまちプロジェクトについて 対応者：高野雄太 氏（おやまちプロジェクト代表理事） 「おやまちプロジェクト」を設立した経緯とこれまでの活動内容や、高野氏が営む「タカノ洋品店」を自分たちでリノベーションし、地域の人が気軽に集まれるコミュニティスペースとしてオープンした「タタタハウス」について話をいただいた。</p> <p>当初は商店街を昔のように活気のある場所に変えたいという思いから動き始めたのが、坂倉先生をはじめ、様々な人と出会い、思いを共有することで、おやまちプロジェクトの活動へとつながってきたとのことであった。おやまちプロジェクトの理念は「課題解決から始めない、わたしたちのやりたいことから始める」とのこと、一人のやりたい気持ちを大切にすることで、まちの野菜をたくさん使ったカレーを、まちのみんなで作って、まちの中で食べる、おやまち流のこども食堂「おやまちカレー食堂」や、商店街の歩行者天国を自由に使った「つながるホコ天プロジェクト」、大人が気軽に集う「Bar おやまち」など、様々なプロジェクトが生まれ、一つのプロジェクトが誕生</p>

して動き出すと、そのプロジェクトがまた新しい出会いをつくるという循環が起きているとの話であった。

また、おやまちプロジェクトの経験があったことで、タタハウスを作ることができたとのことだった。現在は、1階は誰でも気軽に立ち寄れるカフェスペース、2階は「リビングラボ」となっており、都市生活学部の坂倉研究室が入っており、色んな人たちとわやわや共創する場になっている。特にまちの人達とのつながりを大切にしていたところ、相談されることが増えてきたということで、小中学校や企業と一緒に活動することが増えてきているとのことだった。話を聞いた後、実際に尾山台商店街を歩くことで、受講者にとっては参考となるものを多く得ることができた時間となった。

(2) 芝の家・芝のはらっぱ 対応者：加藤亮子氏（芝の家スタッフ）

港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察し、加藤氏から受講者に、芝の家と芝のはらっぱについて話をしていただいた。また、北四国町会のアドプト活動に参加し、4チームに分かれて町内のゴミ拾い&パトロールを町内会の方と一緒に回らせていただいた。その後、芝のはらっぱに移動し、芝のはらっぱの利用者とともに、庭の手入れや、菜園の野菜苗を抜いて掘り返すといった活動を行った。

「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。昭和30年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業である。

「芝の家」は、誰でも自由に入出りできる「まちの交流拠点」として、多世代の人が気軽に立ち寄り、住民と共にまちを考え創ることのできる場として機能している。この事業は、慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、運営を行っているとのことであった。

(3) シンポジウム「世界の意味をご近所から見つけよう」

対応者：坂倉杏介氏、基調講演：西村佳哲氏（リビングワールド代表）
ファシリテーター：山口覚氏（津屋崎ランチ）

ご近所イノベータ養成講座とはやりたいことをまちにつなげる「ご近所イノベータ」を育てる講座で、想いをまちにつなげるさまざまな講座の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生みだす場の運営や、ご近所イノベーション学校という名の新しいかたちの中間支援のプラットフォームづくりを通して、多くのご近所イノベーションが起る地域を目指し、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携によって実施されている。

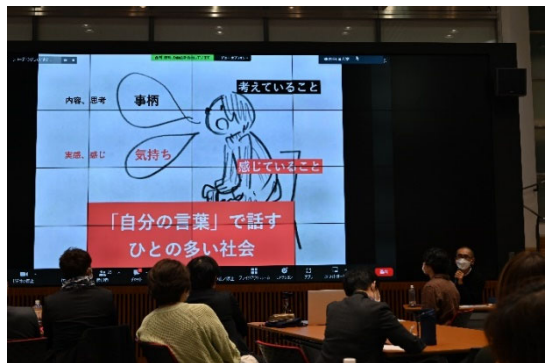
今回はシンポジウムに参加し、第10期の活動発表と基調講演を受講した。4グループの活動発表を聞き、共通していたのは、人が集まれる場をつくるということであった。イベントを実施して終わりではなく、継続的に場をつ

くり、様々な人との交流を通じて、つながりを増やしていきたいという思いで活動していた。基調講演では、地域における対話の大事さということで話が合った。現在は対話の大切さについて至る所で言われているが、対話の内容を聞くと対話にはなっておらず、対話に向かっている状態で、その状況を変えるためにはコミュニケーションのトレーニングが必要とのことであった。



(4) まとめ

人と地域をつなぐ事業の講師の坂倉杏介氏が取り組んでいる、芝の家や芝のはらっぱ、おやまちプロジェクトについて、実践者の話を聞き、その内容を現地で体験できたことで、受講者が講座に参加するだけでは得られない経験を積むことができた。また、第7期生と修了生が共に時間を過ごすことで、期を越えた交流が生まれていたこともフィールドワークによる効果として考えられる。

写 真



人と地域をつなぐ事業シンポジウム

項目	内容
参加者	40名
月日	令和5年2月26日(土) 11:00~16:00
場所	高畠町「浜田広介記念館 ひろすけホール」
内容	<p>今年度が人と地域をつなぐ事業の最終年度となることから、浜田広介記念館のひろすけホールを会場として、これまでの人と地域をつなぐ事業を振り返り、これからのつながりを考えるため、人と地域をつなぐ事業シンポジウム「これからもつながり続けるために～つながる喜び、つながる楽しさ～」を開催した。今回のシンポジウムでは、人と地域をつなぐ事業の受講生からプロジェクトチームを募り、会場選定、講座のタイトル、チラシのデザイン、運営の方法など、事務局とともに準備を進めてきた。</p> <p>シンポジウムが始まるまでの時間は、来場された方は飲み物を飲みながら、人と地域をつなぐ事業の受講生が出店するブースや事業紹介パネルを見て、受講生と交流していただく時間とし、参加者や人と地域をつなぐ事業の受講生にはリソースカード（他の方に提供できる場所、人、モノ）を書いてもらい、交流してもらうツールとして使っていた。</p> <p>シンポジウムは、現地とオンラインのハイブリッドで開催し、40名の方に参加いただいた。「人と地域をつなぐ事業について語る」として、講師の坂倉杏介氏、前神有里氏と、受講生がスライドを見ながら、これまでの7年間を振り返った。</p> <p>その後、ワールドカフェを行い、「人と地域をつなぐ事業は今年度で終了です。これからも続けたいことは。もっと起こってほしいことは。」というテーマで話し合い、「事業が終了するのはもったいない。もっと続けてもらいたい。」「どの人と話しても事業が終わることを望んでいない。どのような形だったら続けていくことができるのか考えたい。」「ゆるい形で定期的に集まる機会をつくっていきたい。」といった、事業の継続を望む声やこれからもつながり続けるための意見が出てきた。受講生だけでなく、来場者ともつながる時間を提供することができたシンポジウムとなった。</p>
写真	 



講座3 「これからどのように生きていきたいか」

項目	内容
参加者	受講者4名（うち1名オンライン）
月日	令和5年3月25日（土）13：00～16：00
場所	スタジオ八百萬（米沢市）及びオンライン
内容	<p>「チェックイン」のあと、1年間の振り返りを行い、受講者の感想を共有した。人と地域をつなぐ事業を受講しての感想や、これからやっていきたいこと、そして、どうなっていった欲しいのか、そのためにはどのようなことを考えて生きていかなければならないのかといった内容について、講師と参加者による対話を行った。</p> <p>講師から、これからデジタルでできるものが増えていく中で、人間がやらなければならないのは良い組織をつくることで、本当にサービスの質を高めるためには、自分なりのやり方を見つけていくしかないとの話があった。</p>
写真	



収支決算書

収入 (単位：円)

項目	金額	備考
基金繰入金	1,795,366	ふるさと市町村圏基金運用益
合計	1,795,366	

支出 (単位：円)

区分	項目	金額	備考
報償費	講師謝礼	774,744	
旅費	旅費	505,040	
需用費	消耗品費	6,998	
役務費	通信運搬費	924	
使用料	会場使用料	112,000	
負担金	補助及び負担金	395,660	
	合計	1,795,366	

差引 (単位：円)

収入	1,795,366	
支出	1,795,366	
差引	0	

おわりに

本組合では、平成28年度からふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的
人材の育成活用事業として、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場と
して、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施してきた。

これまでの事業では、坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した
際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっか
け」だけでなく、受講者同士のつながりや自発的な取組みに繋がったことが大きな成果と
なっている。

ふるさと市町村圏計画の最終年度である今年度は、通常の講座とフィールドワークを実
施するとともに、最終年度事業として、人と地域をつなぐ事業シンポジウム「これからも
つながり続けるために～つながる喜び、つながる楽しさ～」を開催した。参加者の方から
「事業が終了するのはもったいない。もっと続けてもらいたい。」「どの人と話しても事業
が終わることを望んでいない。どのような形だったら続けていくことができるのか考えたい。」
といった意見があったことは、人と地域をつなぐ事業がもたらした成果であり、この
事業に関わった人に変化を起こしているからだと考えられる。

これまで人と地域をつなぐ事業は、受講者へ「気づき」や「きっかけ」を与える場であ
るとともに、受講者とともに、試行錯誤しながらも置賜地域で生き活きと暮らしていくた
めの方法を考えていく事業として進めてくることができた。その結果、受講者だけでなく、
港区芝地区の芝の家、ご近所イノベーション学校や世田谷区尾山台おやまちプロジェクト
とのゆるやかなつながりをつくることができた。

第7期生は、この1年間を通じて受講生同士だけでなく、人と地域をつなぐ事業の修了
生との各期を越えたつながりも生まれ、自分の思いを語り合える仲間が増えた。「わたしを
生かして、地域を活かす」ため、お互いに自分の思いを語り、地域との関わりを深める「気
づき」と「きっかけ」づくりとなった。

7年間に渡って講師を務めてくださった坂倉杏介氏、受講生のみなさま、事業の支援を
いただいた前神有里氏、人と地域をつなぐ事業に関わっていただいた皆様に、深く感謝申
し上げ、報告書の結びとする。